

# 北辰

TOKYO



岐阜県立多治見北高等学校同窓会  
東京支部会報 第30号  
2016年9月10日

## 縦糸と横糸がつながる多治見北高同窓会

多治見北高等学校同窓会東京支部 会長 羅本 礼二 (15 回生)

今年が多治見をはじめ中部以西で猛暑、東京は雨の少ない梅雨明け後に曇天や雨が降るという夏になりましたが、そのような不順な天候の中でも、数年前まで日本最高気温記録ホルダーだった多治見の北高を母校とする皆様におかれましては元気にお過ごしのこと推察いたします。昨年の東京支部総会において、地元の岩村に戻られた原田英明会長の後任として、会長に選出されて初めての東京支部会報でのご挨拶となります。微力ながら皆様のご支援、ご協力を賜りながら、多治見北高同窓会東京支部を盛り上げていく所存ですのであらためましてよろしく願いいたします。

さて、27 回目となる今年が多治見北高同窓会東京支部総会・懇親会は 11 月 6 日 (土) に青山学院 I V Y (アイビー) ホールにて開催を予定しています。今年の幹事は 7 のつく回生になります。恒例のフォーラムは 27 回生の太田康広氏 (慶應義塾大学大学院 経営管理研究科 教授) の講演「国のムダを減らす」というタイトルです。ぜひ、昨年に続いて本年も多くの皆様のご参加をお待ちしています。

私たち東京同窓会 (多北高同窓会東京支部) は 1990 年に設立され、会員数約千人で年に一度の総会・懇親会の開催 (11 月) と会報の発行を行っています。さらに、年に数回のゴルフコンペを開催しています。また、フェイスブック上には「多治見北高同窓会」(全国) のグループがあり情報交換の場となっています。このグループには現在約 320 人が参加しています。



同期会は同じ年に北高に通った者同士の横の繋がりを保ちますが、世代を越えての同窓会は先輩や後輩と縦にも繋がり、縦糸と横糸が繋がることによって、大きな布 (面) の広がりを作りだします。どうぞ皆さま、高校時代の若い心で多北同窓会に参加して、心のよりどころとしての広がりにお包まれてください。



昨年 11 月の東京支部懇親会の様子 (校歌斉唱)

# 東濃地方の活性化にも貢献

多治見北高等学校同窓会 会長 伊藤 恒一 (12 回生)



東京支部の皆様こんにちは、本部同窓会会長伊藤恒一(陶都中学出身、12回生、ハンドボール部)です。日頃本部同窓会活動にご理解、ご支援を頂き心より感謝申し上げます。

最近の同窓会活動は、同窓会内に留まらず地域に出て行き、多治見、土岐、瑞浪を中心とする東濃地方の活性化支援を目指しています。

昨年の夏、北高生(17名)を引率して東日本震災地の現状を自分たちの目で見てもらいました。今年は北高生(12名)だけではなく、多治見西高生(3名)にも参加してもらい、7月30日から1泊2日で宮城県、岩手県に行きました。このツアー

には羅本東京支部会長、阿部同副会長、仙台在住水野輝彦さんにも参加して頂き、現地でスタッフとして活動して頂き大変お世話になりました事、紙面をお借りし御礼申し上げます。

今年の秋には神戸市議員、浦上忠文さんに多治見に来て頂き、阪神淡路大震災の時、小学校のPTA会長として体育館での避難所の管理をされた体験談をお話頂き、東濃地方でも起こる可能性のある震災に備える知恵を市民の皆様にお話して頂きたいと思います。

この様に活動内容がこの数年で増えており、当然経費も増えております。皆様には是非、一口3,000円の協力金を拠出して頂き、本部同窓会の活動を支えて頂ける様お願い申し上げます。最後になりましたが、東京支部の益々のご発展と会員の皆様のご健勝を祈念し、ご挨拶の言葉とさせていただきます。11月の東



第2回東日本大震災復興支援ツアー(女川町にて)



## 「不思議な縁」

多治見北高等学校 校長 桜井 正之

多治見北高等学校同窓会同窓生の皆様には、ますますご活躍のことと心からお慶び申し上げます。日頃は本校の教育に対して格別なご理解とご支援を賜り心から感謝申し上げます。この4月に坂下高等学校より加藤知之校長の後任として、着任しました。多治見北高校でまた過ごすことができることを光栄に感じております。ずいぶんと昔のことになりますが昭和59年度より平成6年度まで11年間本校に勤めておりました。当時、付知峡渡

合温泉にて1年生教育キャンプがあり、なぜか連続して数年間キャンプ要員として駆り出されたことを記憶しております。また、部活動では、男子バスケットボール部を担当し、県大会で上位入賞し東海大会へ出場したことも良い思い出として残っております。

21年ぶりに赴任した多治見北高校は、正門が修道院のある東側に移り、校舎も改築され見違えるほどきれいになっていました。新たな気持ちで取り組んでいくつもりです。また、多治見北高校へ赴任してありがたく感じたことは、出会ったPTA



役員や保護者より積極的に声をかけていただけたことです。これも何かのめぐり合わせでしょうか、その方々は以前勤めていた当時の生徒たちで今はなんと在籍する生徒たちの保護者なのです。話をしながら20～30年前の記憶をつなぐことができました。保護者が教え子たちという関係はとても心強く感じました。今後どうぞよろしく願いいたします。

関東支部・関西支部における同窓生の活躍は、様々な方々にお会いするたびに強く感じます。また、同窓生の皆さんの多治見北高校への母校愛がどの場面においても感じられ感銘を受けております。今年6月に、杉山仁元校長先生が来校されました。杉山先生とは以前、加茂高校、多治見北高校でお世話になりました。先生が退職された多治見北高校へ校長として赴任できたことも何かの縁を感じます。来校の折に、杉山先生が斉藤誠元校長先生と協力し、関東・関西支部の立ち上げにご尽力され、東京支部へは杉山先生が、関西支部へは斉藤先生が校旗（レプリカ）を贈られたことをお聞きしました。この校旗の

もと東京支部のますますの発展を期待しております。

本年度も、7月末に実施された同窓会主催の「東日本大震災復興支援ツアー」には、12名の生徒と共に参加させていただきました。被災地を巡り、いまだに残る津波被害の甚大さを目のあたりにし、自然エネルギーの猛威を肌で感ずることができました。高さ15mの津波が押し寄せる自然の前では人間の無力さを痛感するとともに、被害にあわれた方々のご冥福を祈ります。また、東北各地で復興に立ち上がる若者たちの講演やバス移動の車内にて同窓会同窓生の震災にかかわる講義も企画され、ご尽力いただいた同窓会同窓生の皆様に、あらためてお礼申し上げます。

最後になりますが、同窓生の皆様が積み上げられた伝統を守り、校訓「自主・自律・自学」の精神を引き継ぎながら、人間性豊かな人材および社会に貢献できる人材の育成に努めるよう、教職員一同一丸となって努力する所存ですので、今後も格別なご支援を賜りますようお願い申し上げます。

## 北高校歌制定時の思い出

古山 邦男（3回生）

### 1) 入学時の状況

多治見北高等学校は、1958年4月に陶都中学校の旧校舎を利用して開校され、第1期生のみでの開校・入学式が挙行されて、第一歩を踏み出しました。

そして1960年に我々3回生が入学した段階で、3学年揃っての高校本来の姿になりました。

当時は「自主・自律・自学」の校訓はなく、良い意味でも悪い意味でも「北高生らしく・・・」の一言で種々制約されていました。

例えば、男子学生の頭髮に関して当初から「長髪禁止」と強制され、生徒の要望は全く聞き入れて貰えませんでした。勿論、当時は県内全ての高校で男子学生は丸坊主であり、学校管理者の長髪禁止は特別奇異ではないのですが、そこに生徒会として反旗を掲げました。多くの教諭は我々の長髪禁止の撤廃運動を支援してくれて、その応援を受けながら学級討論会（授業時間を討論会に提供して貰って）を重ね、最終的に生徒会提案の全校討論会と投票によって髪型自由化が取得できたことは大きな思い出です。長髪禁止の撤廃の文言を髪型自由化に変更したのも、先生方のアドバイスによるものでした。

また、秋の体育大会と合わせて北高祭を学校に提案したのですが、これも「学校に祭りはあり得ない！」の一言で許可が得られませんでした。この時も先生方のアドバイスを受けて、「文化系クラブ発表会」の名称に変更して学校長と交渉した結果、多治見市民センターを貸し切った発表会開催と、特別教室での活動展示が出来たことが、現在の北辰祭の起源ではないかと考えます。

### 2) 北高校歌の制定

さて、本題の校歌制定の経緯をお話します。

当時、生徒手帳の校歌欄が白紙状態であり、学校長は勿論、教諭も生徒も、北高校歌の制定を熱望していました。1961年の夏休み前に、学校長より「作詞を國學院大學名誉教授・金田一京助先生に

お願いすることとした」と報告を受けました。アイヌ語の研究で著名であり、当時我々が使用していた国語辞典が金田一京助先生監修であって、その著名度を十分知っていましたので大賛成でした。

当時、国語科の教諭が5人居られ、その内の2名の先生が國學院大學の卒業で金田一先生の教えを受けていたことから、その先生方が窓口となって交渉された結果との報告も併せて聞きました。

その年の秋に金田一京助先生が北高に来訪されることになり、その機会に講演会を事前にお願したところ快諾して頂きました。当日、我々生徒会執行部も玄関前にて金田一先生をお迎えしたのですが、その時の印象は、御歳79歳を感じさせない程、小柄ではあるが背筋がしっかりと伸びていて、堂々とした風格を感じました。今になって金田一京助氏を調べると、1882年生れで、北高を来訪された10年後に89歳で亡くなられているので、当時としては結構長寿と言えると思います。

講演会では、お歳を考えて演台の後方に椅子を用意して「お使いください」と申し上げたのですが、椅子を使うことなく立ったままで約1時間の講演をされました。

講演テーマは『人間・石川啄木』でしたが、当時ですら全く内容を覚えていなく、講演後校長室での懇談の席上で、金田一先生より講演の感想を尋ねられ返答に窮してしまいました。石川啄木はすでに他界している俳人であり、その話をされた金田一先生が目の前にいるのですから、年代を把握せず、「先生と石川啄木が交流があったことに驚きました」と返事をしたところ、「石川啄木は私の4年後輩だよ」笑われてしまいました。（石川啄木 1912年26歳で没）

北高校歌制定時の思い出

3年前の3・11東北地方太平洋沖地震以降に東北方面を旅行した折、盛岡市玉山区洪民にある石川啄木記念館に足を延ばして見学をしてきました。「一金拾円也」の金田一京助氏宛の借用書も展示されており、啄木の無心に気前よくお金を貸して（4頁下段へ続く）

# 「まるごと元気!多治見」の実現を目指して

多治見市長 古川雅典 (11 回生)

## はじめに

多治見市では、平成28年4月1日より第7次総合計画をスタートさせました。計画に基づき人口減少対策を最優先として様々な施策を進めてまいります。これからも「まるごと元気!多治見」の実現を目指して皆様のご意見をしっかりと伺いながら住みよいまちづくりを進めてまいります。

## 新施設が続々オープン

多治見市では、平成18年1月23日の笠原町との合併を機に10年で新しいまちをつくる新市建設計画を進めてまいりました。



星ヶ台保育園

た。本年3月には、星ヶ台保育園、新火葬場が竣工を迎え、4月から供用を開始しました。

また合併の際に笠原町の悲願で

あった多治見市モザイクタイルミュージアムも完成し6月にオープンしました。多治見市モザイクタイルミュージアムは、タイルの歴史や体験コーナーなども完備し、連日多くの人で賑わっています。

多治見市が益々住みやすいまちとなるよう今後も計画的に施設の整備、修繕を進めてまいります。

## コンパクトシティ

7月に多治見駅北に虎渓用水広場がオープンしました。駅周辺に緑と水辺の空間を創出することにより市民が集う憩いの場所となります。また、週末にはビアガーデンが開催されています。夏場の期間限定ですが、多くの人で夜も賑わ



多治見市モザイクタイルミュージアム

います。また、週末にはビアガーデンが開催されています。夏場の期間限定ですが、多くの人で夜も賑わ

いが絶えません。

駅南の再開発事業も都市計画決定され、いよいよ本格的に動き出します。総事業費228億円のうち、国、県及び市からの補助金と保留床を売却することで生じる売却益により、高層マンションや商業スペースなどを整備し、まちなかに賑わいを創出します。



市民の足の確保として、多治見市内の路線バスの上限運賃を平日昼間200円とする施策を継続して行います。先日の調査では、200円バスにしたことで乗車人数が13%ほど増加したとの結果が出ております。郊外に住む市民の“足”を確保しながらコンパクトシティの取組みを加速します。

## 教育環境の充実

多治見市は、人財育成を最優先に岐阜県No.1の教育環境を目指します。

多治見市では、これまで中学3年生で行っていた30人程度学級を本年から中学2年生まで拡大しました。これまで県の予算で行っていた中学1年生と併せて市内の全中学校で30人程度学級が実現し、きめ細かな対応が可能となりました。

また、子どもたちに暖かい給食を届けるために近接校対応調



虎渓用水広場

(3頁から続く) いたとの補足説明もありました。

金田一京助氏のご子息・春彦先生(やはり語学学者)が、「子供心に、借金にくる啄木は、石川五右衛門の子孫ではないかと思った」と述べていることを聞いたことがあり、金田一京助先生の人間性の大きさに関心した記憶があります。

## 3) 作曲家の決定

講演後の校長室での懇談の席で、金田一先生から「作曲は誰に依頼するのか?」との質問があり、校長先生がまだ決まっていませんと報告したところ、金田一先生から「よければ、私から東六に作曲するように言おうか?」との発言。校長先生以下全員が、東六が誰なのかすぐには解らず一瞬沈黙でした。金田一先生から、作曲家高木東六氏であることを説明され、全員二つ返事で先生をお願いを

しました。

高木東六氏は、管弦楽・オペラ・シャンソン等のクラシック音楽から映画音楽・童謡や、多くはないが歌謡曲の作品も発表されており、全国の小中高校の校歌も数多作曲(一部作詞も)されています。当時、NHK「あなたのメロディー」、TBS「家族そろって歌合戦」の名物審査員としてお茶の間でも有名でしたので、異議をとるものは誰もいませんでした。また、高木東六氏は90歳を超えても尚現役で、高齢者の合唱団の指揮・指導を続けて合唱界にも大きな足跡を残しています。2006年8月に02歳で他界されましたが、非常に長寿で長く音楽界に貢献をされました。

1961年の年末近くに、金田一先生が約束された通り、作詞・金田一京助、作曲・高木東六の多治見北高等学校校歌が校長先生の

現場の整備を進めています。平成28年7月には、養正小学校に調理場を整備し、近隣の養正小学校付属幼稚園、多治見中学校に提供を行います。今後もさらに整備を進めて食育の充実を図ります。

昨年から小学生を対象に始まった土曜学習「わがまち・たじみ大好き講座」を今年度も継続して行っています。子どもたち



に多治見市の素晴らしいところを見て、聞いて、感じていただくことで、将来も多治見市に帰ってきてもらえることを期待しています。

また本年度から学童保育の所管を福祉部から教育委員会へと変更しました。これにより放課後、親が働いているなどの理由により家庭で保育が受けられない小学生を対象に学校内で放課後児童クラブを運営することができるようになりました。

#### 施設の整備

多治見市では、現在、市内の施設の大規模修繕を進めています。バロー文化ホールの大ホール、小ホールの天井補強工事、音響設備取換工事及び舞台機構の改修工事を行うことで利用者の利便性を高めます。

星ヶ台競技場の第2種公認を継続するための改修においては、トラック部分を薄く削り、再度吹き付けることで改修を進めています。2種公認を継続して取得することで大きな大会など誘致し、多治見市のスポーツ振興につなげます。

#### 人口減少対策

多治見市では、移住・定住促進として、市外からの転入者が住宅団地の空き家の取り壊し（建て直し）やリフォームを行う際



に補助金を交付します。要件を満たした家屋について、ホワイトタウン、市之倉ハイランド、旭ヶ丘・明和団地をモデル地区として、中学校卒業前のお子さんがあるかたへ、団地内の建て替えを伴う空き家の取り壊し、リフォームの費用について一部を補助します。補助は、中学生以下の子どもの人数に応じて補助上限額が変わります。

これらの施策と併せて長瀬テクノパークの造成工事と誘致活動を進めます。また、進出企業に企業立地奨励金を交付するとともに、転入した従業員にも奨励金を交付し、移住・定住を進めます。

#### 災害対策

多治見市では、平成23年の水害を教訓として浸水対策を進めています。笠原川左岸の排水施設工事、脇之島川の改修工事などを行うとともに、土岐川右岸ポンプ場増設工事、土岐川左岸ポンプ場建設工事を行います。

世界の中心でご活躍の皆様には、今後とも、なお一層故郷多治見に元気を送ってくださいますよう、ご支援とご協力を心よりお願い申し上げます。



元に届けられました。さっそく音楽部が練習及び手本の録音収録を行なって、全校生徒にお披露目をしました。

残念ながら、一回生の先輩方々は歌うことが出来なかったのですが、2回生の卒業式には校歌斉唱で送ることが出来ました。そして今なお、同窓会・同期会等の集まりでこの校歌を口ずさむたびに、若かったころを懐かしく思い出すのは、同窓生皆の喜びであると思います。作詞家89歳・作曲家102歳のご長寿の著名人による北高校校歌が、いつまでも長く歌い継がれていくことと思います。

#### 4) 最後に

53年前のことで、多少間違った事項もあるかもしれませんが、大筋では以上のような感じです。特に、クラス編成やクラブ活動等については時代と共に変化しており、昔の状況と最近の状況を披露・比較す

ることが、卒業年次の離れた同窓仲間の話題の一つとなれば幸いと考えています。

新設の学校であることから、かなり学校管理者と論争をしたような表現となってしまいましたが、当時の校長・教頭先生に反発する気持ちが強かった訳ではなく、先生方と共にお互いに新たな北高のカラーを生み出す努力をしていた結果と考えて下さい。特に、コンピューターも電子計算機もない時代に、生徒一人一人の成績分析表（入学試験成績から毎学年の定期テスト及び学力試験成績等の分析）を、手作りで纏めて生徒の進路指導資料を作成して頂いた先生方の熱意と御苦労に感動・感謝していたことを強調してまとめとします。



## 第2回東日本大震災復興支援ツアー 「次世代へバトンを渡す」

阿部 仁美 (23 回生)

夏の晴れた空に、今年もまた同窓会主催東日本大震災復興支援ツアーの一行が、小牧空港から飛び立ちました。7月30-31日の1泊2日、本年は総勢35名でした。内訳は北高在校生12名、西高在校生3名、桜井校長はじめ歴代北高校長ふくめ教員4名、伊藤会長はじめ有志10名、東京支部からは羅本会長と東北在住の水野様と私の3名、事務局として多治見市役所から3名。震災から5年の月日が経過して、被災地もそれぞれが復興の新たな局面を迎えています。各自治体における復興の取り組み方や進行状況もまちまちであり、現役高校生には震災の生の姿をしっかりと感じてほしいという気持ちと共に、この5年間で被災地がどのように復興に取り組んできているのかを現地で肌で感じてほしいという思いもありました。

旅程1日目は、女川町・石巻の大川小学校・南三陸防災センターの災害対策庁舎、そして気仙沼泊。女川町では、女川町復興連絡協議会戦略室の小松洋介様から女川町の取り組みのお話を伺いました。小松様は仙台出身で震災を機に前職を断り現職に就かれた方です。若く熱意あふれる方で、在校生は熱心に聞き入っていました。女川市の復興の特徴は、世代間の連携がとてもスムーズに回っていることと、行政と地元住民の連携がうまく機能していることでした。印象的だったのは、復興のリードを完全に次世代に任せきる、という点です。この先、20年後30年後に現役としてこの町を担う世代、つまり20代30代の若手に復興計画・実行を一切任せ、それより上の世代は口を出さないこと、そして上の世代の役割として金策と揉め事の解



大船渡津波伝承館で齋藤館長の話熱心に聴く

決に専念して、「何かあったら任せろ」という立場に徹してきているということ。これはなかなかできることではなく、大きく学ぶ点でした。

旅程2日目は、陸前高田の奇跡の一本松・大船渡津波伝承館・盛駅から三陸鉄道南リアス線に乗車し釜石駅まで・釜石ミッフィーカフェ。

大船渡津波伝承館では、「かもめの玉子」のお菓子で有名な「さいとう製菓」の元専務の齋藤賢治館長から、自らが撮影された実際の津波の映像を見ながらお話をいただきました。実際の津波の映像は、心に強く響くものがありました。また、「津波でんでんこ」という、津波がきたら自分で逃げろ、という現地の

教えの言葉があり、この教えを紙芝居として仕立てたものを上演していただきました。紙芝居の語りは被災者・経験者としての生の言葉として、とても迫力がありました。若い夫婦のうち妻と赤ちゃんが津波で亡くなったお話でしたが、在校生他多くの参加者がハンカチを取り出していました。感想を述べるはずの在校生も感極まって言葉になりませんでした。強く心に刻まれたものと思います。

今年開通したばかりの三陸鉄道南リアス線では、美しい夏の海を眺めつつ、震災によって鉄道すらも流された甚大な被害を痛感せざるを得ませんでした。そして最後の地、釜石では、オランダとミッフィーの作者ブルーナさんの震災復興支援として建てられたミッフィーカフェで、ランチセッションをおこないました。釜石市役所の釜石市総合企画部総合政策課まち・ひと・しごと・ひと創生室長の石井重成様から釜石市の復興の取り組みに関してお話いただきました。女川町の小松様同様、若いリーダーの石井様の熱意あふれるトークでした。その後は、在校生たちは石井様を囲んでランチを取りながらざっくばらんに会話を楽しみました。何を話したのでしょうか。釜石市もまた、若いリーダー主導で復興が進んでいる自治体です。ここでもまた、世代間の連携が鍵であり、バトンを渡すことの重要性を耳にしました。釜石市は、私がか社の社会貢献活動で半年ほどご支援させていただいたご縁で、今回のセッションが実現したものです。また、ツアー後に発覚したのですが、このミッフィーカフェの可愛い食器類は、多治見の商品でした。

多くの刺激と学びを得た当ツアーですが、とても印象的だったのは、このツアーの構成が、旅行社に依頼したものではなく、訪問する場所全てに北高の卒業生のネットワークが発揮されていることでした。在校生たちも、それに気づいたことを期待します。そして、こうした多治見北高同窓会主催の震災復興支援ツアーもまた、我々が次世代の現役高校生へ渡す、「バトンの1本」であることを感じました。このような素晴らしい活動を企画実行されている伊藤会長はじめとする諸先輩方に心より敬意を表します。



## 3回生の初詣 古山 邦男 (3回生)

日本中どころか、ニューヨークや台湾も降雪による被害が出た今年の1月24日(日)に、東京は快晴に恵まれ、北高3回生同窓会恒例の明治神宮初詣に集合しました。今年6回目の年男・年女を迎える我々は、木漏れ日の参道を静かに歩いて神殿に向かい、心新たに初詣の参拝をしてきました。

日曜日で友引とのことで、白無垢と袴の和装が初々しい新郎新婦及び参列者が静神殿に向かう行列に遭遇し、多くの参拝者とともに祝福の拍手を贈りました。

初詣の参加者は添付写真の通りで、昨年瑞宝双光章を叙勲した金田雅代さんも東京メンバーの一員として中津川より参加してくれました。残念ながら彼女は多忙のため、その後の会食には参加できず静岡に向かいましたが、残る全員で新宿に場所を移しての昼食会を実施し、ここから一名参加してくれた人がいた関係で9名で食事をしながら北高時代の話から小学校の話題まで飛び出して、大いに話の花が咲きました。

我々3回生の初詣は今年で6回目ですっかり恒例行事に定着してお



り、初詣以外にも四月の花見や夏の隅田川花火大会、随時の食事会等の行事で、年3~4回集まって親睦を深めています。

昨年の東京支部総会・懇親会に7名が出席できたもの、3回生の行事で顔を合わせる機会を多く持っていることによるものと考えています。

今年も4月早々に千葉県佐倉市で桜花見をする予定で、それぞれ都合をつけて参加すべく計画中です。皆72歳を迎えて、さらに健康で元気に顔を合わせる機会を作って、ゆっくりとした時間を過ごすことで、ますます精進を続けています。

## 8回生東京同窓会に19名が参加

小原 久 (8回生)

北高卒業から48年経ち、65歳を昨年迎え、職場をリタイアし余暇を楽しんだり、まだまだ仕事を続けていたり、両親や孫の面倒に日々奔走したり、持病と向き合いつつ毎日を過ごす、1968年3月卒業の関東地域在住の8回生がそれぞれ集まり、在学中の思い出、卒業後の経験、現在の生活などの話題に花を咲かせました。

北高卒業関東地域在住在勤の8回生は、以前には40名を超えるメンバーを登録していたが、現在は36名となり、本年4月10日(日)に北高8回生同窓会を開催し、半数を超す19名が会場となった東京浜松町の世界貿易センター39階にある東京会館「ダイニングバーBar39」に参集した。

今回初参加されたのは秋河流域ジオパークの実現に向けて活動されている竹内さんと定年退職後をエンジョイしている長江さんの2名で、医学会で多忙な加納くんや加藤夫妻、山口くん、宮川くんなどが久々の参加となった。

会は、12時から食事と飲み物などをオーダーしながら自己紹介とともに始まり、加藤夫妻が関西方面に転居されるとの報告もあり、次回は関西で開催?などの話題で盛り上がった。まだまだ元気な時に亡くなられた横井くん、可児くん、原くんに想いを寄せながら次の再会を約して3時過ぎ頃に閉会した。



恒例となった世界貿易センター東京会館での8回生同窓会

## 多北東京ゴルフコンペ開催

7月18日大相模カントリークラブにて

7月18日(祝)、大相模カントリークラブにおいて、「多治見北高同窓会東京支部ゴルフコンペ」を3組9名の参加で開催しました。当日は猛暑の中ではありますが、皆さんで楽しい時間を過ごすことができました。

優勝者は、最年長ながら、まだまだバリバリ現役の鈴木満さん(1回生)でした。

今後も1年に2回のペースで開催していきたいと考えていますので、多くの皆さんの参加をお待ちしております。

担当幹事:鈴木清二(13回生)、渡辺啓一(12回生)までご連絡ください。





## 第27回 多治見北高同窓会東京支部総会・懇親会のご案内

会員の皆様には益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。また、平素より支部運営にご協力いただき厚く御礼申し上げます。さて、今年の東京支部同窓会総会・懇親会は、渋谷にあります「IVY HALL」で実施いたします。総会・懇親会は、「異業種・異世代交流の場」として、どうぞ積極的に活用してください。ご多用中のこととは存じますがお知り合いの同窓生もお誘い合わせのうえ、是非ご出席くださいますようご案内申し上げます。

多治見北高同窓会東京支部総会実行委員会（下一桁7の回生）

### 記

日時：平成28年11月6日（日曜日） 午後2時～6時00分（1時30分開場）

会場：「IVY HALL」

所在地 渋谷区渋谷 4-4-2

電話：03（3409）8181

総会・フォーラム 中会議室

懇親会 大会議室

### <プログラム>

・総 会：午後2時00分～2時30分

・フォーラム：午後2時45分～3時45分

講師：太田康広氏（慶應義塾大学大学院 経営管理研究科 教授・27回生）

演題：「国のムダを減らす」

・懇 親 会：午後4時00分～6時00分

懇親会費：一般 6,000円

平成16年以降卒業生 3,000円（44回生以降）

学生 1,000円

同伴家族 3,000円（但し小学生以下無料）

年会費：一般 2,000円 学生 0円



編集委員 羅本礼二（15回生）、鈴木清二（13回生）

<ホームページアドレス> <http://www.tajimikita-tyo.com/> <メールアドレス> [info\\_hokushin@tajimikita-tyo.com](mailto:info_hokushin@tajimikita-tyo.com)